

## 未治療高齢者多発性骨髄腫における治療法と予後の検討

多発性骨髄腫は化学療法(抗がん剤による治療)や放射線療法によりある程度の治療効果が得られることが知られています。しかしながら、標準的な治療を施行しても完全寛解率(見かけ上は病気が消える確率)が低く、また増悪率(良くなった病気がまた悪くなる確率)が高いために、十分な治療成績は得られていません。よって、治癒率の向上を目指した新しい治療法の検討がなされています。また、65歳を超える多発性骨髄腫の患者さんの治療においては、長年、MP療法が標準治療とされてきました。しかし、近年、MP療法にボルテゾミブを加えたVMP療法がMP療法よりも優れた成績を示し、標準治療はボルテゾミブをはじめとする新しい薬剤を使用した治療へと変わりました。その他、新しい薬剤としては、サリドマイド、レナリドミドという薬剤があります。多発性骨髄腫の治療は新しい薬剤を使うことで、大きく進歩しました。しかしながら、患者さんの体の具合や病気の進み具合によって最適な治療法は異なり、すべての患者さんに同じ治療を行うことはできません。

この研究は、65歳を超える多発性骨髄腫患者さんにおける治療法および予後を調査することを目的とします。これらの研究によって、患者さん毎の最適な治療法の確立につながり、多発性骨髄腫の次世代の患者さんの治療に大きく役立つことが期待されます。

本試験は、国が定めた「臨床研究に関する倫理指針」を遵守し、当院での臨床研究倫理委員会(臨床研究の実施または継続について、倫理的観点及び科学的観点から調査及び審議する委員会)においてその科学性・倫理性について厳重に審査され、病院長の承認を受けて実施されます。